



会長 岡島達雄
 副会長 中武泰一郎
 幹事 武末喜久治
 例会日 毎週木曜日 12:30～
 例会場 ホテル泉屋 2F
 事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 1368-4
 ホテル泉屋内 TEL/FAX 0983-21-1636

第1661回 平成22年9月2日プログラム

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX 披露 |
| 2. ロータリーソング | 8. 各委員会報告 |
| 君が代・奉仕の理想 | 9. 外部卓話 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 10. 次週例会案内 |
| 4. 会長の時間 | 11. 点 鐘 |
| 5. 幹事報告 | |
| 6. 出席報告 | |

2730地区ガバナー 伊藤 学而
 中部分区ガバナー補佐 岩切 昇
 2730地区テーマ

クラブを活性化し、地域と時代の要請に応えよう

高鍋ロータリークラブテーマ

品位のある楽しいクラブを実現し、社会の要求にこたえよう

9月の月間テーマ

新世代のための月間

本日のゲスト；黒岩正春様＝新世代担当

- ・米山ランチBOX
- ・セレモニー；誕生祝6名・結婚記念祝3名
- ・例会終了後理事会開催

次週例会案内；9月9日（木）1662回例会

- ・血圧測定
- ・外部卓話一初鹿野 聡様
- ・例会終了後プログラム委員会開催

第1660回 例会内容

■会長の時間

会長 岡島達雄君

建築物の寿命

Mottainai 2として、今日は、建物の寿命のお話をさせていただきます。建物の寿命は、減価償却資産の耐用年数として、財務（旧大倉）省令により決められています。これを一般には法定耐用年数といいます。例えば住宅という用途で、木造は22年、鉄骨は肉厚によりますが19年から34年、鉄筋コンクリートは47年です。

これらは、主に構造材が経年により劣化して有効に働く断面が少なくなってくる、従って強さも減ってくる、という考えによっています。木は腐朽菌や白アリにおかされる。鉄は錆びる。錆びの進行は錆止めしないと年に0.02mm、潮風の吹く海岸沿いや車の多い道路沿いではその10倍になる。これは片面ですから10年経つと4mmの鉄板は溶けてなくなるという計算です。

一方鉄筋コンクリートの梁や柱は、鉄筋に最小でも3cmの強アルカリ性のコンクリートがかぶさっています。アルカリの雰囲気では鉄は錆びず錆も進行しません。ところが鉄の錆を防ぐ役目のアルカリ性のコンクリートは、経年で表面から大気中の炭酸ガスと結合して中性化します。この進行速度は、年5～10mm。

中性化が鉄筋表面に到達すると、錆びは鉄骨単独の場合と同じように錆びはじめます。さらに悪いことに錆びるとその部分は元の鉄の容積の数倍に膨れますから、鉄筋に沿って楔を打ち込んだようになり、かぶりのコンクリートが鉄筋に沿って剥離します。

しかし、現実には防錆処理のしていない鉄骨構造や仕上げのない鉄筋コンクリート構造物はないのです。打ち放しコンクリートといえども最近浸透性吸水防止剤などを施し管理しているところが多いのです。従って丁寧に扱うと建物は法定耐用年数の2倍も3倍も使えます。あくまでも平均ですが、前にもお話したように欧米ではそれぐらい建物を大事に永く使っているのです。

建物を解体するには相当の廃棄物が出るし、建て替えるにも相当のエネルギーが要ります。狭小国土で資源小国の日本でなぜ建物が大事に永く使われないのでしょうか。日本の税法や融資制度は、改修より建て替えの方が有利になっています。また高度成長期頃から国民性としても新規好みの傾向が強まっています。

建物が、時代の要請や家族構成の変化に耐えられなくて建て替える、というならそういう変動に耐えられるような設計にするべきではないでしょうか。それは不可能ではないのです。

■幹事報告

幹事 武末喜久治君

*9月のロータリーレポートのお知らせ

1ドル=86円



*GSE 特別委員会開催案内
 日時 平成 22 年 9 月 6 日
 場所 野崎東病院 2 階
 *社会奉仕委員長セミナー
 日時 平成 22 年 9 月 26 日
 場所 鹿児島東急イン

◆出席報告

図師義孝君

ビジター；西都 RC 押川伸生君・藪押邦弘君
 佐土原 RC 村上寛君・藤堂孝一君

出席状況 (単位：人、%)

会 員 数	41
出席会員数	35
ホーム出席率	85.37
前々回の修正出席率	94.87

◆外部卓話

永井哲雄様

高鍋藩の“まちづくり”幻想と現実

高鍋町でも“町づくり（おこし）”“人づくり”など云われて久しい。高鍋藩の歴史でいう町づくりはどうであったか、改めて考えてみよう。



高鍋藩は藩領のなかでも特に城付地の経済活動の拠点として、三町二津浦を置いた。それは藩の経済活動の大方を担い、周辺農村を結びつけ地域の活性化を図るものであり、なかでもその

の中心は高鍋城下の“町”であり、それを外に向けて支えたのが蚊口浦（現高鍋港）であった。いずれも藩が江戸時代初めに意図的に整備した“町”である。

高鍋城下の“町”は、現在の大字高鍋町小字町で、のちに「東町」が加わった。まさに日向国中央の町である。全体の地形は長方形で、真ん中を南北に街道が通り、参勤交代の大名が往来した。近代になって国道 36 号線、同 3 号線（昭和 27 年まで）となった主要な街道筋である。

町割りには街道を挟んで東側、西側に、間口 5 間、奥行 2 4 間（4 畝）の屋敷割りが基本で、これを壱ヶ畝といい、半分の屋敷（間口 2.5 間、奥行 2 4 間）を半ヶ畝と云った。東西それぞれに、およそ 100 軒の町方衆の家屋が並び、その家屋の形は高鍋藩独自のものが定められていた。表通りに面して中二階の奥行きのある典型的な町屋型で、さらに奥に土蔵や馬屋が付く。そして壱ヶ畝衆には 3 反、半ヶ畝衆にはその半分の畠地が給されていた。

町の世話役乙名部当には別に約給がつく。しかし、この町方衆の一員になるには一人前一ヶ月 7 日の手飯の公役（藩の仕事）をはたす必要があった。時代によって多少の違いはあるが、それをはたすことによって、

町全体や個々にさまざまな仕事や利権が与えられ、藩はその商活動に附帯した税を徴収した。

藩が育てた町方衆の活動機能は広範囲である。まずは一ヶ月 6 日の定期市、そして宿駅（交通運輸）の機能で飛脚、公私の人馬継立、旅籠の役割がある。とくに人馬の調達は周辺農村との連携なくしては成り立たない。また周辺農村産物の買付、専売（木材・薪・炭・松煙・椎茸・茶・うるし・はぜ・楮・麻・菜種・苧など）、そして民間資力による山林植林などがあり、藩は積極的に民力利用による植林法である部一山・仕立山を育てた。

これらの商品の輸送には、蚊口浦と連携して沿岸の小廻し船、上方への問屋船などが使われ船持ち商人が出現した。そしてその商いには海漁や河川漁（鮎）などの網持（陸引き、立網）・漁船持ちの商人も登場する。これらはいずれも藩から特別の免許をうけた。

このような町方衆の商活動で貯えられた資力はかなりの額にのぼるとみられるが、「損毛」（風水害・旱魃・虫損）、幕府が命じる過大の接待馳走役、参勤交代と御門番御防番などのほか、普請役、大火による江戸藩邸焼失で上方、他領商人層を頼りにした経費調達が可能になり、小口ながらこれら町方衆の献金、支出金、借上等によって藩に吸い上げられる。このことは幕末から明治・大正期まで大きな影響を残した。ちなみにこのような町方衆の資力が残った飢肥藩の場合は、没落武士層の屋敷を町方衆が買い上げて今に至る城下町の風情を残した。

このような資力の減退のみが、高鍋町の活発な町の機能消失の要因ではない。交通系統の度重なる変更、国道と網の目のような県道政策、中心（核）構想のない都市、「町」を守る意識の喪失、古いものに対するこだわりのない離脱、たとえば個性ある集落や通り、家屋、地名、墓地、橋名（鯨橋 恐らく高鍋でははじめて架かったその開閉で船が通行できる橋）など理由は多くある。

歴史からみれば、町の機能回復にはさまざまなことが考えられるが、歴史への理解、現状の正確な把握から出発することが必要ではないか。歴史的な裏付け次第では歴史的な資源は金を生む。県庁本館をみよ。

◆親睦活動委員会—BOX披露

河野浩二君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

*茂木晃君 口蹄疫基金として

*橋口清和君 永井先生をお迎えして。前回の親睦会の時飲食手形が当たりましたが、期限切れの為、まだ手元にあります。

*鍋倉春代君 親睦会時手形が 2 回も当たりましたので

*岡島達雄君・石井秀隣君 永井達雄先生お話を楽しみにしています。西都クラブ、佐土原クラブの会長・幹事さんようこそいらっしやいました。ありがとうございます。

*藤本範行君 永井哲雄先生をお迎えして。心よりお礼申し上げます。

*木村貞夫君 三男が今月 21 日結婚しました。花嫁は尾道の人で小学校の教諭です。北九州が新居です。